



## 第55回 関西学院史研究会

# 戦間期(1919-39)前半における関西学院 —「恒久平和」運動と英文学教育・研究—

神学部と普通学部の2部制で1889年に発足した関西学院は、その後、1912年に専門学校令による高等学部(文科・商科)を設置し、13年9月、文科には小山(おやま)東助氏が学科長に就任し、15年には英文学科、哲学科、社会学科の3学科制となりました。さらに21年には文科が文学部となり部長にH. F. ウッズウォース氏が、商科は高等商業学部となり、同窓の神崎驥一(きいち)氏が学部長に就任しました。

ここに関西学院は文系総合高等教育機関となり、旧制、さらには新制の総合大学への道を歩みました。

まさにこの時期は、第一次世界大戦(1914-18)とその戦後処理の一つとして国際連盟が設置され(1920)、この国際機関を軸に戦後の「恒久平和運動」が興り、関西学院も教職員がこの運動に積極的に参加した時期であり、他方、関西学院の英語・英文学研究教育の黄金時代を支えた「麗はしくも床しいクラス」(1919-23在学)と呼ばれる曾根保(たもつ)氏、岩橋武夫氏、寿岳(じゅがく)文章氏らが多くの優れた教員から豊かな全人教育と英語・英文学教育を受けました。

本講演では、この戦間期の前半に活動した学生運動や学生の軌跡を追ってみたいと思います。

● 講師 ●

## 井上 琢智 氏

(いのうえ たくとし)

元関西学院大学学長、元経済学部教授、学院史編纂室主任研究員

# 2023 11 / 7 (火) 13:20~15:00

大学図書館・地下1階 大学図書館ホール

(西宮上ヶ原キャンパス)

無料・一般参加歓迎・申込不要

主催

関西学院 大学博物館 学院史編纂室

0798-54-6022